

主権者が政治変える

安保法制廃止 安倍政権ノ一 市民連合が初街頭宣 東 京・新宿

720人余が署名



(写真)市民連合の街頭宣伝で、弁士の訴えを聞く人たち=5日、東京・新宿駅西口

昨年12月に結成された「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」(市民連合)が5日、「アベにNO!野党共闘へ」を合言葉にする初の街頭宣伝を東京・新宿駅西口で行いました。戦争法の廃止を求める「2000万署名」にも大きな反響がありました。市民連合に参加する団体代表と、野党各党が交互にスピーチ。国民一人ひとりが主権者として、筋の通った野党共闘を実現し、夏の参院選で勝利しよう、自公を過半数割れに追い込もうとの訴えが相つぎました。最後には「民主主義って何だ これだ!」「選挙に行こうよ」のコールが響きました。

志位委員長訴え

新宿駅西口の歩道は、数十メートルにわたって埋め尽くされ、「ラインで友人に誘われた」(仙台市の25歳、男子大学生)、「政治への意識を高めたくて来た」(横浜市の15歳、男

子中学生)など、多くの若者が訴えに聞きいりました。歩道橋のデッキの上にも多くの人が集まるなど、駅前には約5000人(主催者発表)で埋まりました。

戦争法の廃止を求める「2000万署名」への協力を呼びかけると、駅前を歩く人が立ち止まり、720人を超える人が署名に応じました。署名用紙を何枚も持ち帰る人も目立ちました。

街宣では、市民連合有志の各代表、著名人、国会議員らが宣伝カーの上から訴えました。

「安保関連法に反対するパパ・ママの会@熊本」の瀧本知加さんは「全国に先駆けて市民と野党各党の統一候補を擁立することができました。こんなにひどい政治を見過ごせない。この動きが広がることを願っています」。

SEALDs(シールズ)の本間信和さんは「私たちは準備ができています。小さな違いや対立を超え、強行的な政治を推し進める政権に対してあらがう準備が。参院選に向け自分には何ができるのか。実際に行動していきましょう」とよびかけました。

街頭宣伝の趣旨を説明した「総がかり行動実行委員会」構成団体の一つ、憲法共同センターの小田川義和さんは、「市民の声を形にし、市民と政党の共同を実現させる。2000万署名を集めきり、野党共闘を前進させましょう」と呼びかけました。

日本共産党の志位和夫委員長をはじめ、民主党の蓮舫代表代行、維新の党の初鹿明博衆院議員、社民党の吉田忠智党首が参加。「憲法を守らない安倍政治を終わらせよう」との各氏の訴えに、聴衆からは「野党は共闘」のコールが何度も起こりました。

1時間半にわたった訴えの最後には、学者の会で、学習院大学教授の佐藤学さんが「(参院選で)野党共闘が実現すれば、過半数超えも不可能ではない。市民が政党を動かす新しい日本の道筋を開こう」と締めくくりました。

後方で立ち止まって、訴えを聞いていたのは、東京都文京区の子供高生(17)です。「最近、学校で18歳選挙権の授業がありました。私が思っているより政治のことを考えている人が多かったんです。きょう見て感じたことをみんなに伝えていきたい」

「1年半前まで自民党支持者だった」。9歳の孫を連れていた杉並区の男性(67)はいます。「孫が6人いる。戦争だけは絶対にしてはいけない。地域でも行動していく」

2016年1月6日(水)

アベにNO!野党共闘へ

みんなで政治動かそう

市民連合の新春大街頭宣伝

5日、東京・新宿駅西口で開かれた「アベにNO!野党共闘へ 1・5新春大街頭宣伝」(市民連合主催)での学者や各団体代表のスピーチ(要旨)を紹介します。

「まとまりなさい」と

慶応大学名誉教授 小林 節さん

一番腹が立っているのは安倍晋三首相の応援団の評論家が、いま日本は安倍首相側の「日本軍」と私たちのように反対する「反日軍」の戦争状態と言っていることです。しかし、自衛隊がアメリカに“二軍”として死にに行く。沖縄の基地、TPP（環太平洋連携協定）など安倍さんのやっていることは日本を取り戻すどころか、日本をアメリカに差し出すことです。われわれこそ「日本的」です。

反知性で憲法違反の安倍政治は、4割の得票で7割の議席を占有していることに由来します。四の五のいわずに選挙区で野党がまとまれば確実に政権交代できます。政治家ではないわれわれが「まとまりなさい」といいたまう。



統一候補先駆け擁立

安保関連法に反対するパパ・ママの会@熊本 瀧

本知加さん

全国に先駆けて市民と野党各党の統一候補を擁立することができた経緯を報告します。

こんなにひどい政治を見ごせない。選挙権を行使して自公議員を落選させ、統一候補の擁立こそが必要だと確信しました。集団的自衛権行使容認撤回、安保関連法の廃止、立憲主義を取り戻すという市民と野党の共通の思いです。

候補者になったのは、シングルマザーから弁護士になった阿部広美さんです。熊本には水俣病などに対して市民と野党が結束してたたかってきた歴史があります。

私たち市民が求める議員は私たち自らが国会に送る。この動きが広がることを願っています。



人間であること守る

精神科医 香山リカさん

脳研究の発展は目覚ましい。しかし人の心や意識の中にアクセスすることはいまだできずにいます。だからこそ私たちは人が今何を考えているのかを理解し、自分の気持ちを相手に伝えようと努力しています。

安倍政権が誕生してから、私たちの気持ちや命を踏みにじる政策が次つぎと履行されています。「言葉を持たなくてよい。心を持たなくてよい」といっているかのようです。

このたたかいは人間であることを守るたたかいです。私たちは心をつにして、絶対にお互いの手を離してはいけません。



2000万署名を広げよう

総がかり行動実行委 高田 健さん

広範な市民が、自分たちの力で「政治を変える」「安倍政権を絶対に止める」という意思を持って、市民連合をつくりました。かつてない新しい大きな試みです。

昨年8月・9月の熱いたたかいをともにした仲間たち。絶対にこの国を「戦争する国」にさせるわけにはいかない。全国でも大きな運動をしましょう。

国家神道と創価学会が連合しているのに、野党が共闘できない理由はありません。政治は政治家だけがつくるわけではない。市民と野党が一緒になって新しい政治をつくっていく。

2000万署名を通じて「野党は共闘」「安倍政権ストップ」のたたかいを、この場から起こしましょう。



衆知集め暴走止める

安全保障関連法に反対する学者の会 内田 樹

(たつる) さん

いま行われているのは暴走です。“一刻の猶予もない”というのは、暴走する政治家の常套句（じょうとうく）です。

世界はどう変化しようとしているか。イギリスで、コービン氏が労働党党首になりました。大学の学費無償化などを掲げ「政治が介入して資源の再分配を行うべきだ」と訴えています。アメリカの大統領候補の一人、サンダース氏も「市場にゆだねず、政治が資源の再分配をしないと社会的なケアはできない」と語っています。

われわれがどこにいて、どこに向かうのか。どうやって暴走を止めるのか。衆知を集めて議論しましょう。



小異捨て大同につけ

立憲デモクラシーの会 中野晃一さん

自分の頭で考えて、自分の足で行動に参加し、抗議の意思を示す。この運動は、大きくなるばかりで、尻すぼみになることはないと思信しています。

新年になっても野党の枠組みができていない。あんたたちは何をやっているんだ。小異を捨てて大同につく。ちゃんと話し合っ、前を向かないと、このままでは自公による独裁政治になる。

じゃあどうするか。さらに、私たちがつながっていくこと以外にないじゃないですか。政党、政治家に対して、お尻をたたき、押し続けることをやりきろう。

選挙が行われるのは、それぞれの街です。それぞれの地域の国会議員、候補者に「手を



つなげ」「共闘を」といってください。

確信も準備も覚悟も

シールズ 本間信和さん

私たちが声を上げ続けたのは、確信があるからです。この国の主権者は私たちであり、私たち一人ひとりが現実を変えることができることに。一人ひとりが孤独に思考し行動することが私たちの未来を築いていくことに。

私たちは準備ができています。小さな違いや対立を超え、強行的な政治を推し進める政権に対して、あらがう準備が。私たちは覚悟ができています。政治家任せにせず、おもねりもせず、私たちの声を政治に反映させていく覚悟が。

参院選に向け自分には何ができるのか、その責任を受け止めて実際に行動していきましょう。言うことを聞かせるのは俺たち一人ひとりです。

新しい民主主義築く

安全保障関連法に反対する学者の会 佐藤 学さん

私たちは今年の憤りを忘れることができません。私はこんな時代を生きるために学び、働き、生きてきたわけではない。

次の参院選挙は日本の未来を決定する大きなたたかいになります。

市民連合は▽安保関連法を廃止する▽閣議決定の取り消し、立憲主義を取り戻す▽個人の尊厳が尊重される社会を築く—の3点の公約を結ぶ候補者を支援します。

政党が国民を動かすのではなくて市民が政党を動かす、新しい日本の民主主義を築こうではありませんか。市民が連合し野党が共闘し、その力が合わさってこそ、次の日本の未来が開かれます。ともに頑張りましょう。

戦死した兄弟の名も 99歳男性からの署名

昨年11月から全国で始まった戦争法の廃止を求める2000万人統一署名運動。新春大街頭宣伝では、新潟のある施設で暮らす99歳の男性から、5人の名前が書かれた署名と手紙が紹介される場面もありました。紹介したのは、総がかり行動実行委員会の福山真劫氏です。

手紙を寄せたのは、5人兄弟の三男で、署名簿の一番上に名前と住所を書いています。2人目は、長男の名前と、住所の欄には「亡くなりました 兵隊に行き」と書かれています。次男も四男も五男も住所の欄には「亡くなりました 兵隊に行き」と書かれています。

福山氏は、「安倍政権の暴走は許さないという、この手紙の主の思いを全国に広げたい。7月の参院選にむけて、横につながって支えあって取り組めば、暴走を止めることができる。2000万署名を必ずやりきろう」と呼びかけました。



市民連合って？

「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」（略称＝市民連合）は昨年12月20日、戦争法（安保法制）に反対してきた5団体の有志が呼びかけて結成されました。

「要綱」で、「安全保障関連法を廃止、立憲主義を回復し、自由な個人が相互の尊重のうえに持続可能な政治経済社会を構築する政治と政策の実現を志向する」という「理念」を掲げています。

「方針」では、戦争法廃止の2000万署名を「共通の基礎」に置き、(1)安全保障関連法の廃止(2)立憲主義の回復（集团的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を含む）(3)個人の尊厳を擁護する政治の実現—に向け野党共闘を求めています。「これらの課題についての公約を基準に、参議院選における候補者の推薦と支援を行う」としています。

さらに、「個人の尊厳を擁護する政治」で政策志向を共有する候補者を「重点的に支援していく」ことを「要綱」に明記。参院選の32の1人区で「野党が協議・調整によって候補者を1人に絞りこむことを要請する」とし、候補の擁立について「野党とともに必要に応じて市民団体が関与」するとしています。



（写真）弁士の訴えを聞く人たち＝5日、東京・新宿駅西口

2016年1月6日(水)

「市民連合」新春大街頭宣伝

志位委員長のスピーチ

「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」が5日に東京・新宿駅西口で行った新春大街頭宣伝で、日本共産党の志位和夫委員長が行ったスピーチは次の通りです。

みなさん、こんにちは（「こんにちは」の声、拍手）。共産党の志位和夫です。

昨年、9月19日に安倍政権は安保法を—私たちは戦争法と呼んでおりますが、強行いたしました。許し難い暴挙ですが、これに反対するたたかいを通じて、大きな希望が見えてきたのではないのでしょうか。国民一人ひとりが、主権者として、自分の頭で考え、自分の言葉で語り、自分の意思で行動する、市民革命的な動きの始まりと言っていいような素晴らしい運動が起こり、そして「市民連合」が生まれたことを、私は心からうれしく思います。（指笛、拍手）

戦後初めて「殺し、殺される」 現実的危険—南スーダン、イラク、シリア

みなさん。戦争法ばかりは、通ってしまったからといって、あきらめるわけにはいきませんね(「そうだ」の声、拍手)。そのままにしておくわけにはまいりません。

戦争法が強行された状況を、もう一回、大本から考えてみたいと思うんです。私は、二つの危険が今、目の前にあると思います。

第一は、日本の自衛隊が、戦後初めて外国人を殺し、戦死者を出すという現実的な危険が生まれているということです。

どこが危ないのか。アフリカの南スーダンにPKO(国連平和維持活動)として派兵されている自衛隊の任務が拡大されて、「駆けつけ警護」を追加されようとしています。武器の使用が大幅に緩和されることになる。武力紛争が続いているところで、一方の側に立って介入したら、戦闘行為そのものになるじゃありませんか。(「そうだ」の声)

自衛隊員が少年兵を撃ってしまったら、取り返しのつかないことになるではありませんか。

そして(過激組織)ISの問題です。いま、(米国などが)ISに対する空爆を強化していますね。私は、ああいう空爆の強化では問題は絶対に解決しないと思います。(「そうだ」の声、拍手)

ところが、米国が対IS軍事作戦への自衛隊の軍事支援を要請してきたらどうなるでしょう。戦争法があるいまとなつては、断れない。自衛隊が、対IS軍事作戦に動員されて、「対テロ戦争」を行う。こんな恐ろしいことはありません。日本が憎悪の連鎖に組み込まれることになる。日本国民がテロの標的にされることになる。

南スーダン、イラク、シリアが、「殺し、殺される」初めてのケースにされようとしています。こんな道は断じて許してはなりません。(「そうだ」の声、拍手)

立憲主義破壊——戦争国家、独裁政治への道を絶対に許さない

第二の問題は、立憲主義の破壊という問題です。戦争法を強行するさいに、安倍政権は、従来の憲法解釈を百八十度ひっくりかえして、立憲主義を壊しました。

立憲主義とは何か。どんなに多数を持っている政権党であっても、憲法という枠組み、ルールは守らなくてははいけません。これが立憲主義です。これを無視して、権力が暴走を始めたらどうなるか。独裁政治の始まりではありませんか。(「そうだ」の声、拍手)

これは、誇張でもなんでもありません。安倍政権が沖縄に対してやっている無法なあのやり方、独裁政治そのものじゃありませんか。(「そうだ」の声、拍手)

みなさん、戦争国家、独裁政治への道は、絶対に許すわけにはいかない。

ですから、みなさん、戦争法は廃止しなくてはなりません(「そうだ」の声、拍手)。安倍政権は11本の法案をまとめて強行したわけですから、こちらも11本まとめて、きれいさっぱり廃止に追い込もうではありませんか。(口笛、大きな拍手)

参院選で野党が結束してたたかい、自公と補完勢力を少数派に転落させよう

そしてみなさん、そのためには、まずは参議院選挙の審判が重要です。政治が間違ったことをやったら、主権者のみなさんが罰してください。憲法破りの政治をやった自民、公明に退場の審判を下して、参議院で自民、公明とその補完勢力を少数派に転落させようじゃありませんか。(「そうだ」の声、大きな拍手)

そしてそのためには、野党が結束することが必要です。バラバラでは勝てません。(「そうだ」の声、拍手)

とくに全国32の1人区、そのすべてで、真剣な協議をおこない、しっかりした合意を



(写真) 訴える志位和夫委員長 = 5日、東京・新宿駅西口

つくって、野党共闘を実現していきたい。

先ほど、熊本からの発言がありました。熊本が市民・野党統一候補の第1号になりました。熊本では絶対に勝ちたいと思うけれども、熊本のような筋の通った野党共闘の流れを全国に広げて、32の1人区全部で自民党を落とそうじゃないですか（「そうだ」の声、口笛、大きな拍手）。私たちもそのために頑張ります。

好き嫌いを乗り越えて、大義のために手を結ぼう

今、一部から「共産党アレルギー」という声も聞こえてまいります。私たちも共産党への拒否感をなくすために努力したいと思いますが、やっぱりみなさん、今、日本の政治は、独裁政治を許していいかどうかの分かれ道ですから、好きだの嫌いだのと言っている時ではないのではないのでしょうか。（笑い、大きな拍手）

戦争法を廃止し、立憲主義を回復するという大義にたって、好き嫌いを乗り越えて、みんなて手を結ぼうじゃないかということを訴えて、私たちも頑張り抜くことをお誓いして、ごあいさついたします。ありがとうございました。（口笛、歓声と大きな拍手）

2016年1月5日(火)

国会開会日に3800人

総がかり行動「安倍政権退陣を」

第190通常国会が4日、始まりました。アベ政治を終わらせる年のたたかいの出発だ。同日、国会前では、「安倍政権は今すぐ退陣」「野党は共闘」「2000万署名を成功させよう」とのコールがあげられました。国会開会日総がかり行動です。3800人が参加し、衆院第1議員会館前から参院議員会館前まで四重、五重となりました。

「モチ食って、怒り増す」「共闘候補を支えよう」と一人ひとりの思いを書いたプラカードも目立ちました。

「今年初の集会。待っていましたという思いです」と戦争法廃止のプラカードを掲げて参加したのは埼玉県所沢市の男性(66)＝自営業＝です。「夏の参院選挙に向けて野党が結集できる土台として市民連合に期待しています。開かれた印象になってきた共産党にも心強さを感じています」

向かい側の歩道から行動をスマートフォンで撮影していたのは、北海道旭川市の女性(45)です。「野党をつなげることができるのは市民の力だけ。こんなにも多くの人が抗議の声をあげている姿に元気をもらいました。地元にも帰っても声をあげていきたい」

主催する総がかり行動実行委員会の3団体、日本弁護士連合会の代表らが訴えました。憲法共同センターの小田川義和さん(全労連議長)は「安倍政権こそが民主主義破壊の元凶です。2000万署名を成功させれば、政治は変わります」と力を込めました。



(写真) 国会開会日行動で「安倍退陣」とコールする人たち＝4日、国会前

野党共闘 全国の流れに

山下書記局長がスピーチ

各党代表も

国会開会日総がかり行動には、日本共産党16人、民主党3人、維新の党1人、社民党1人の国会議員が参加し、各党代表がスピーチしました。

日本共産党の山下芳生書記局長は「去年は憲法違反の戦争法強行でくやしい思いもしたが、希望も手にした。国民のなかで空前のたたかいが起こった」と強調。「日本国民の新しい歩みを、今年は日本の政治の変革につなげよう」と呼びかけました。安倍政権について「国家の暴走で個人の尊厳を踏みつぶす政治だ。戦争、沖縄、原発、TPP、雇用、消費税しかり」と批判。「熊本では、いきさつを乗り越え、市民とすべての野党が力をあわせて、統一候補を決めた。この流れを全国に広げましょう」と訴えました。

民主党の福山哲郎参院議員、維新の党の初鹿明博衆院議員、社民党の福島みずほ副党首が話しました。